



バンコク日本人学校の教育課程について

教育課程とは、簡単に言うと、学校教育目標の達成のために学校が子供たちに「何を」「どのように」教えるのかを定めた学校教育全体の計画のことです。

バンコク日本人学校の学校教育目標は、『夢や希望をもって前進する子供の育成』です。この学校教育目標を達成するために、次のような方針で学校教育を計画しています。

1. 「何を」

本校は在外教育施設ではありますが、日本の学習指導要領に沿った教育を行います。また、知徳体のバランスをとりながら、自他を思いやることのできる豊かな心を育ませるとともに、知識基盤社会で生きていくための学力や社会の変化に対応できる能力を育てるため、以下を本校教育の重点項目としています。

- | | |
|----------|--------------------------|
| ①個性の伸長 | ②10の学習者像の育成（国際バカロレア機構提唱） |
| ③人権意識の高揚 | ④特色ある学校 ⑤応用力の育成 |

2. 「どのように」

学校教育目標の達成、また上記1を推進するため、各学年で学年目標、学年テーマ、学年経営方針を定めています。特に、学年経営方針では学校全体で3つの局面（4～7月、8～11月、12～3月）を意識し、学びに向かう集団づくり、安心できる環境づくりを基盤とし、そのうえで一人一人が可能性を見出したり集団の中で参画したりしながら個を伸ばしていく過程を意図しています。



（令和6年度の実践内容）

また、各学年での取り組みだけでなく、小中合同で実施する「ゆめ集会」や「TJAS スポーツフェスティバル」などの学校行事を中心に、異学年とのつながりを大切にした教育活動を行うことで、共感性や思いやりの育成、コミュニケーション能力の向上、豊かな学びの場の創出などを目指していきます。

さらに、社会に開かれた教育課程、特色ある教育課程を実現するため、今年度も日系企業やタイ社会と連携した教育活動も展開していきます。

「学校」「家庭」「地域」が子供の健やかな成長を支えるパートナーとして歩んでいければと思いますので、変わらぬご理解ご協力をお願いいたします。



(中学生が行った1年生への読み聞かせ活動)

中学部における柔軟な教育課程の編成

文部科学省は、柔軟な教育課程の編成を促進するために、学校ごとに「裁量的な時間」を設けられるようにするなど教育課程の見直しを求めています。従来の50分授業を45分授業に見直し、多様な教育活動を推進していくことが学校の裁量により実施できるようになります。すでに日本国内の自治体では授業時間を45分とし、柔軟な教育課程を実施している学校もあります。本校においては、45分授業実施に伴う、裁量拡大によって弾力的な教育過程を編成し、基礎学力定着のための学習や高校受験を見据えた自立した学習者の育成を1つのねらいとして令和6年度の試行を経て令和7年度より45分授業を実施しています。

今年度より朝の時間に学習の時間を設けました。この時間では、日々の学習課題に向き合い、自己の計画に基づいて自力で学習を持続的に展開していきます。生徒たちは「I Schedule Planner」というスケジュール帳(通称:アイスケ)を基に課題をプランニングしスケジュール管理をしながら学習をコントロールしています。月ごとの目標を立てたり、提出期限や定期テストに向けて逆算したりしながら一人ひとりが自己の学びに向かっています。計画を立てるだけでなく、学びを振り返りながら自己の学習を調整したり、学んだことを友達に伝えたりしながら朝の学習が進んでいます。今後は定期テストに向けて自らの学びを充実させるとともに、テスト後の結果(テスト後に個票が配布されます)を分析する時間として朝の学習時間を活用していく予定です。

また、学習の時間の他に朝読書の時間や中学部全校生徒が集まって朝会や集会をする時間を設定しています。5月26日より「MottoSokka!」

(電子書籍)の利用が始まり、これまで以上に読書に親しんだり、課題解決に向けて充実した調べ学習を進めたりする姿も期待されます。朝の学習や読書の時間、朝会や集会など、裁量拡大により柔軟な教育課程の編成が可能となりました。今後は、行事に向かって団活動(縦割り活動)や生徒会活動の時間としても活用するなど、『夢や希望をもって前進する子供の育成』をすすめてまいります。